

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

科目ナンバリングについて
こちらを参照してください。
講義コード
7310112-1
授業科目名
経済学入門
授業科目名（英字）
Introduction to Economics
時間割
後期 金曜日 3校時
対象年次及び学年
1年次
担当教員
松井 潤
ナンバリングコード・水準
B1
ナンバリングコード・分野
ECN
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー（DP）
bca
ナンバリングコード・提供部局
E
ナンバリングコード・対象学生
3
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応
O
ナンバリングコード・授業形態
Lx
ナンバリングコード・単位数
2

関連授業科目
ミクロ経済学I、マクロ経済学I
履修推奨科目
経済数学入門、ミクロ経済学I、マクロ経済学I
学習時間
講義90分 × 15回 + 自学自習（準備学習15時間 + 事後学習45時間）
授業の概要
経済学は、社会における経済活動のあり方を通じて、どうしたら人々の幸福を達成できるかを研究する学問です。経済学の分野は、伝統的にミクロ経済学とマクロ経済学の大きく2つに分けられます。ミクロ経済学は、消費者と企業がどのように意思決定を行い、市場でどのように影響し合っているかを分析します。マクロ経済学は、インフレーション、失業、経済成長のような経済全体の現象を分析します。この講義ではそれぞれの入門的な内容を扱います。

授業の目的
どうすれば社会の人々がより良く暮らしていくことができるかを考えるため、ミクロ・マクロ経済学の基礎を学びます。そして、様々な社会・経済現象を分析するための基本的な手法を習得します。
到達目標
・経済学の基礎的な概念を説明できる（DPの「b. 知識・理解」に対応）。 ・基本的な社会・経済現象を分析し説明できる（DPの「b. 知識・理解」に対応）。
成績評価の方法
到達目標の達成度を、課題30%、期末試験70%で評価します。詳細は、初回授業時に説明します。
成績評価の基準
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。
授業計画並びに授業及び学習の方法
【授業計画】 第1回 経済学とはどんな学問か 第2回 比較優位の理論 第3回 ミクロ経済学（1）：経済全体の諸活動と市場の均衡 第4回 ミクロ経済学（2）：需要・供給曲線のシフトと価格弾力性 第5回 ミクロ経済学（3）：経済厚生 第6回 ミクロ経済学（4）：所得分配と独占 第7回 ミクロ経済学（5）：外部性と公共財 第8回 ミクロ経済学（6）：情報の非対称性とゲーム理論 第9回 マクロ経済学（1）：国内総生産と物価 第10回 マクロ経済学（2）：三面等価の原則 第11回 マクロ経済学（3）：消費と乗数効果 第12回 マクロ経済学（4）：投資と金融政策 第13回 マクロ経済学（5）：集計的総需要曲線 第14回 マクロ経済学（6）：労働市場と集計的総供給曲線 第15回 まとめ
授業計画は、必要に応じて変更する場合があります。
【授業及び学習の方法】 授業は、板書およびスライドを使用した講義形式で行います。毎回課題を出しますので、期限までに提出してください。
【自学自習のためのアドバイス】 講義と課題を通じて、各回の内容を確実に理解してください。前回までの内容の理解が十分でない、ついでいけなくなります。教科書や参考書をじっくりと読むことも重要です。疑問点があれば、遠慮なく担当教員に質問してください。
第1回～第15回 教科書の該当箇所を読み、前回までの復習と予習を行う。（15時間） 第1回～第15回 講義の復習と課題に取り組む。（45時間）
【授業形態】 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。
教科書・参考書等
【教科書】 授業は、次の教科書に準拠します。 奥野正寛（2017）『経済学入門』日本評論社、2,000円+税
【参考書】 教科書と同レベルの書籍をいくつか紹介します。大学図書館などで、自分にあうものを見つけて読んでみるとよいでしょう。 伊藤元重（2015）『入門経済学』第4版、日本評論社 福岡正夫（2008）『ゼミナール経済学入門』第4版、日本経済新聞出版社 スティグリッツ、ジョセフ・E. カール・E・ウォルシュ（2012）『スティグリッツ入門経済学』第4版、東洋経済新報社 マンキュー、N・グレゴリー（2019）『マンキュー入門経済学』第3版、東洋経済新報社 アセモグル、ダロン、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト（2020）『アセモグル/レイブソン/リスト入門経済学』東洋経済新報社
その他の参考文献は、授業で随時紹介します。
オフィスアワー
月曜日3校時、研究室
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
経済学は、お金もちのための学問ではありません。例えば、どの株を買ったらいいか、といった問いを考える学問ではありません。でも、経済学はきっとみなさんの役に立つ、面白い学問です。 とくに、みなさん自身が生きている社会・経済はどのような仕組みで成り立っているのか、そしてどうすればより良い社会を実現できるのかといった問題に関心のある人には向いている学問といえるでしょう。
参照ホームページ
メールアドレス

教員の実務経験との関連